

11月5日は 津波防災の日 世界津波の日

11月5日は「津波防災の日」「世界津波の日」。四海に囲まれたわが国は古来、たびたび津波被害に見舞われた。過去の災害を教訓に日ごろから、被害軽減につながる行動を再確認することが大切だ。災害を記述した古典文学も多く、その代表例を紹介する。



11月5日は 津波防災の日 世界津波の日



内閣府 津波防災 検索



第6回 防災推進国民大会

11月6日(土) 11月7日(日)

～震災から10年～つながりが創る復興と防災力
ーいわて釜石からー

詳しくはWEBサイトで ぼうさいこくたい 検索 >

主催：防災推進国民大会実行委員会(内閣府・防災推進協議会・防災推進国民会議) 協力：岩手県、釜石市

あわせて開催>> 11月5日(金) 「津波防災の日」スペシャルイベント

11月5日は広く津波対策についての理解と関心を深めるための「津波防災の日」として「津波対策の推進に関する法律」により定められています。この日は、昭和七年(寛政元年)11月5日(太陽暦では1954年12月24日)の宮城県南三陸町と和歌山県を津波が襲った際に、船に火をつけて、船艙の中で逃げ遅れている人々を救命に避難させて救った漢口船長氏の逸話にもちなみです。この逸話をモデルに「船むらの火」の物語が作られました。

寄稿

内閣府特命担当大臣(防災) 二之湯 智



建設業界の皆様には、日頃より防災行政の推進にご貢献を賜り感謝申し上げます。11月5日は「津波防災の日」「世界津波の日」です。津波は、迅速かつ適切な避難により人的被害を相当程度軽減できる災害であることから、津波の特性を理解し、適切に行動できることが特に重要です。皆様はこの日をきっかけに津波への対策を再確認いただければと考えています。未曾有の津波被害をもたらした東日本大震災の発生から10年余りの歳月が流れました。この間、被災地の復興と災害に強い地域づくりに貢献いただいた建設業界の尽力に深く感謝いたします。我が国においては、今後も津波を伴う巨大地震の発生が危惧されています。引き続き、津波の観測体制の強化、津波に関する教育・訓練の実施、津波対策のための施設の整備等の対策に取り組んでいかなければなりません。まず、南海トラフ地震への対策については、地方公共団体や企業等において南海トラフ沿いでM7以上の地震等の異常な現象が発生し、さらに大きな地震の発生可能性が高まった旨の情報が発表された場合の防災対応について検討し、各機関の防災計画に反映いたしていく必要があります。地方公共

津波対策の再確認を

団体の計画変更が進み、臨時情報発表時の情報伝達や津波からの事前避難に係る対応が明確になってきたことから、今後はそれも踏まえ、企業の皆様にも防災対応の検討を進めていただきたいと考えています。次に日本海溝・千島海溝沿いの巨大地震については、現在、冬季の積雪凍結による避難速度の低下や低体温症発症リスクの上昇等の積雪寒冷地特有の課題にも対応した検討を進めているところです。これらの巨大地震対策に加えて、国民一人ひとりの意識の向上が必要であることから、内閣府では11月5日の「津波防災の日」の前後に、全国9か所において、地方公共団体との共催により「地震・津波防災訓練」を実施します。また、11月5日当日には、津波防災に積極的な地域の取組を紹介するスペシャルイベントを、オンラインを活用して開催し、国民の津波防災意識の向上や定着を図ります。

津波防災の日は、東日本大震災を教訓に2011年6月に制定した「津波対策の推進に関する法律」に基づく、15年の第70回国連総会で「世界津波の日」が採択された後、17年に改正した同法では、11月5日の世界津波の日に合わせて国際協力に推進する規定が盛り込まれた。同法では、津波対策に関する観測体制強化、調査研究推進、被害予測、連携協力体制整備、防災対策実施などを定め、津波対策についての理解と関心を深める狙いだ。津波防災の日・世界津波の日に合わせて開催される津波防災訓練やイベントなどを通じて、避難行動実施の大切さを広める。内閣府では5日に「津波防災の日」スペシャルイベントを岩手県釜石市

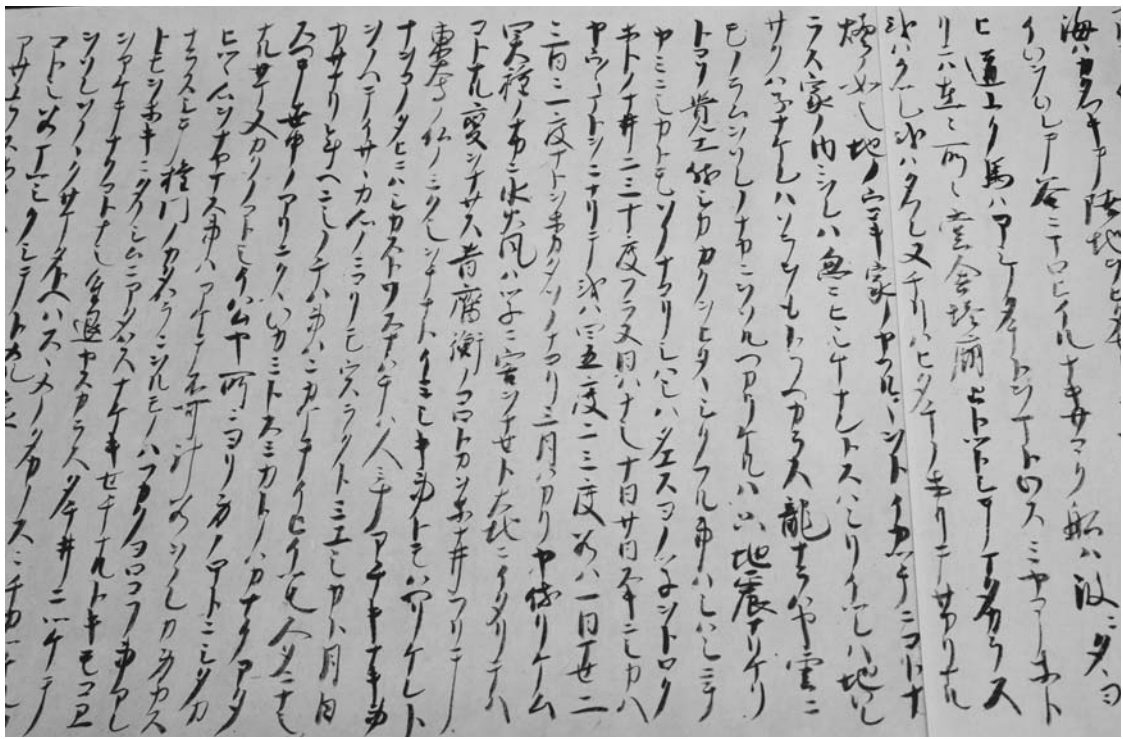
被害軽減へ 避難行動再確認

釜石市でスペシャルイベント 防災推進国民大会も

で開催する。現地とオンラインの併催。今村文彦東北大学災害科学国際研究所所長による基調講演やパネルディスカッションを予定している。合わせて6・7日には「防災推進国民大会2021」も岩手県釜石市で開催する。東日本大震災からの10年を振り返ることも、これからの復興と防災の在り方を考える。内閣府は、津波防災の日・世界津波の日の前後となる10月30日・11月14日に行われる地震・津波防災訓練をまとめている。国や地方公共団体、民間企業など156団体が地震や津波の発生時における避難行動を再確認する。要配慮者施設での協力体制や、新型コロナウイルスの感染予防対策を取り入れた避難所運営についても検証する。

一般社団法人 建設コンサルタンツ協会 会 長 野 崎 秀 則 東京都千代田区三番町 1 番 地 (K Y三番町ビル 8F) 電話 03(3239)7992 FAX 03(3239)1869	一般社団法人 日本埋立浚渫協会 会 長 清 水 琢 三 東京都港区赤坂 3-3-5 (住友生命山王ビル) 電話 03(5549)7468(代表)	確かなものを 地球と未来に 一般社団法人 日本建設業連合会 会 長 宮 本 洋 一 東京都中央区八丁堀 2-5-1 電話 03(3553)0701(代表)	
大成建設株式会社 代表取締役社長 相 川 善 郎	清水建設株式会社 取 締 役 社 長 井 上 和 幸	鹿島建設株式会社 代表取締役社長 天 野 裕 正	株式会社 大 林 組 取 締 役 社 長 蓮 輪 賢 治
前田建設工業株式会社 代表取締役社長 前 田 操 治	西松建設株式会社 取 締 役 社 長 高 瀬 伸 利	株式会社 フ ジ タ 代表取締役社長 奥 村 洋 治	戸田建設株式会社 代表取締役社長 大 谷 清 介
鉄建建設株式会社 代表取締役社長 伊 藤 泰 司	佐藤工業株式会社 取 締 役 社 長 平 間 宏	熊 谷 組 取 締 役 社 長 櫻 野 泰 則	安 藤 ハ ザ マ 代表取締役社長 福 富 正 人
三井住友建設株式会社 代表取締役社長 近 藤 重 敏	長谷工コーポレーション 代表取締役社長 池 上 一 夫	五洋建設株式会社 代表取締役社長 清 水 琢 三	飛島建設株式会社 代表取締役社長 乗 京 正 弘

文学で追体験
危機回避に有意



複製日本古典文学館『方丈記』（現存最古の写本・大福光寺本〈京都国立博物館寄託〉の複製）本写真は元暦の大地震を記した箇所。「ハネナケレハソノラモトフヘカラス龍ナラハヤ雲ニモノラムソノレノナカニソノルヘカリケルハ只地震ナリケリトコソ覚エ侍シカカクヲヒタ、シクフル事ハシハシニテヤミニシカトモソノナコリシハシハタエス（略）」（羽がないから空も飛べない。竜でもあれば雲にも乗れよう。人間の悲しさ。地震こそは恐ろしいものの中でも恐ろしいと思うべきだと痛感した。こういうふうにもものすごく揺れることは、しばらくしてやんだけれど、その名残はしばらく絶えないで…）の部分では、余震に触れていること、地震の渦中にある人をおもんばかっていることがうかがえる。

『方丈記』 鎌倉時代の随筆。著者の鴨長明は京都・鴨御祖神社（下賀茂社）の神職の生まれ。正頼宜（ねぎ）だった父が若くして亡くなり後盾を失った長明は、鴨祐兼・祐頼父子との後継争いに敗れる。河合社禰宜に就く契機が訪れるが成らず、出家して隠遁生活を送った。『方丈記』の書き出し「ゆく河の流れは絶えずして、しかももとの水にあらず」に、長明の仏教的無常観を読み取ることができる。

『平家物語』 軍記物語。作者、成立年ともに未詳だが、現存本で比較的原態を留めていると推測される延慶本の奥書（書写した人の名や写した事情、日付などを本の最後に書いたもの）は鎌倉時代末期成立をうかがわせる（『徒然草』第226段では後鳥羽院時代に成立したとある）。写本・版本は「読み本（読まれることを想定して作られた諸本）」「語り本（琵琶法師語りの台本、またはそれに近い諸本）」の二種に大別される。現在最も読まれているのは語り本の「覚一本」。読み本と比較して、分量は少なめである。「祇園精舎の鐘の声、諸行無常の響きあり。沙羅双樹の花の色、盛者必衰の理をあらわす」と起筆し、平家の栄華と没落を叙述しながら、世の無常を描き出す。

執筆意図内包する災害記述

「『方丈記』が災害に見舞われた時の人の心情や行動の詳細を描く一方で『平家物語』はそれを踏襲していません。『平家物語』は『方丈記』と比べ被害の規模を大きく記したり災害の発生日時を実際と変えたりしています。作者の意図に基づいて話を展開していくため、軍記物語ではよく見られる手法です」

「『方丈記』では元暦の大地震の余震にも言及するのに対し、『平家物語』では、大地震発生の原因を滅亡したばかりの平家のたたりとし、本巻の記述のみにとどまっています。余震は平家のたたりの話題を引き出す上で必要からず。さらに『平家物語』では、つじ風の発生を史実より1年前にずらしています。平重盛・平清盛の長男。1138（1179年）の死に始まる天下争乱の前兆としてつじ風を利用したのである。災害の正しい発生日時を残すのは、

「古記録は公家の日記という性質上、著者本人の思い違いでない限りは正確な日時と被害が記されていると考えられます。日記類、朝廷が残した記録、歴史書などを読んで史実を踏まえた上で、古典を読むとそれぞれの作品の特質と意図をうかがい知ることができます。『方丈記』の五大災厄は『百練抄』（公家の日記を抜粋・編纂した日本の歴史書、鎌倉時代末期成立とされる）や『明月記』（平安時代末期から鎌倉時代初期の公家歌人・藤原定家の日記。1180年から1235年まで記す）、『玉葉』（九条兼実、1164年から1203年まで記す）でも触れられています。『明月記』は、藤原定家自身や親しい仲の人々の被害状況を中心に記されているのと比べて、『方丈記』はさまざまな立場の人の被害状況と心情に目を向けた作品と言えます。『玉葉』には元暦の大地震の被害について、余震や地下水の噴出など詳細部分まで記録しており、政治家でもあった著者の九条兼実が災害の被害に高い関心を持っていたことがうかがえます」

「古典も含め、文学作品を読む意義は、自分たちが体験していないことを追体験させてくれるところにあると思います。災害によって負の心情に陥った人や私達が決して実行しないような犯罪を行った登場人物などの描写に触れることで、どうして経緯でつながってしまうのか、どうしたら避けられるのかを考える手になります。悩んでいる人の気持ちを察しやすくなります。かつて人間たちが犯してしまった差別といった過ちがあることを現代の人間に伝え、繰り返さないよう戒めてくれることもあります」

「おすめの文学作品は、『建築に携わる方に勧めるのは立

『方丈記』に記された五大災厄と同時期に起こった歴史的出来事

歴史的出来事	災害（記『方丈記』）	文学的出来事
		1000年ごろ『枕草子』成立。
1072年（延久4年） 白河天皇即位。86年まで在位。	1177年（安元3年） 大火災発生。京都東南から出火し北西まで広がった。	
1180年（治承4年） 平清盛が福原（現在の神戸市）に遷都	1180年（治承4年） 中御門京極あたりで大きなつじ風が起こる。	
1183年（寿永2年） 倶利伽羅峠の戦いで源氏軍が勝利。平家軍敗走。	1181年～2年（養和元年～同2年）ごろ 西日本一帯で大飢饉が発生。4万2300人ほど亡くなる。	
1184年（寿永3年） 源頼朝、鎌倉に公文所・問注所設置。		
1185年（元暦2年） 壇ノ浦の戦いで源氏が勝利。平家滅亡。	1185年（元暦2年） 大地震発生。3カ月ほど余震が続く。	
		1212年（建暦2年） 『方丈記』成立。
		鎌倉時代 『平家物語』成立とされる。
		鎌倉時代末から南北朝時代にかけて 『徒然草』成立。



（そうとめ・ただし）1994年東京大学文学部国文学専修課程卒業、2002年同大学大学院人文社会科学研究科博士課程単位取得退学。博士（文学）。二松学舎大学教授。長崎県出身。専門は日本中世文学。著書に『藤原定家論』（空閑書院、2011年）などがある。

interview

二松学舎大学
文学部国文学科教授

五月女 肇志氏

日本でも最も古い地震の記録は『日本書紀』に残る。古典は、後世に生きる人々に災害の存在を知らしめてきた。中世に成立した『方丈記』と『平家物語』は、火災、つじ風、地震など災害の様子を詳細に記す。両者は同一の災害を示す一方、被害規模や発生日時に差異がある。中世文学専門家で二松学舎大学教授の五月女肇志氏に、古典に残る災害描写の読み解き方や文学を読む意義について聞いた。

――災害の記録を残す古典の中で代表的なものは。

「『枕草子』（清少納言、1000年）の成立、『徒然草』（兼好法師、鎌倉時代末から南北朝時代にかけて成立と並ぶ三大随筆の一つ）、『方丈記』（鴨長明、1212年成立）が挙げられます。安元の大火、治承のつじ風、福原遷都、養和の飢饉（ききん）、元暦の大地震の五大災厄など作者・長明が体験した天変地異・社会現象を記しています」

「『方丈記』は世の中の人と住居の無常をテーマに、一丈四方分の草庵生活の素晴らしさを説く作品です。その主張を補強する事例として災害を用いています。数々の災害

――『方丈記』のほかに。

「『平家の栄華と没落を描く』『平家物語』（作者未詳、鎌倉時代成立とされる）も実際に起きた自然災害に触れています。現代に残っているのは『方丈記』より100年ほど後、14世紀に入ってから書かれたと考えられます。『方丈記』に記される安元の大火、治承のつじ風、福原遷都、元暦の大地震が『平家物語』にも記され、『方丈記』と比べ被害規模を誇張した表現が見られます。『平家物語』の作者は『方丈記』を参照して書いているのです」

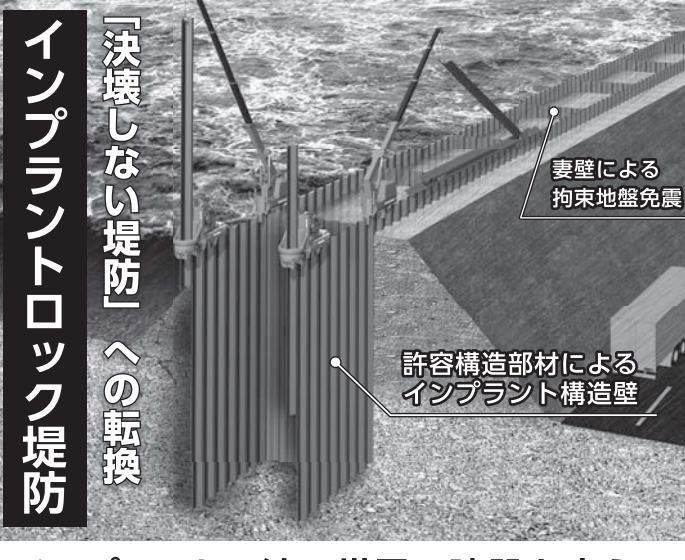
――2作品の違いは。

「『方丈記』のほかに、

「古記録は公家の日記という性質上、著者本人の思い違いでない限りは正確な日時と被害が記されていると考えられます。日記類、朝廷が残した記録、歴史書などを読んで史実を踏まえた上で、古典を読むとそれぞれの作品の特質と意図をうかがい知ることができます。『方丈記』の五大災厄は『百練抄』（公家の日記を抜粋・編纂した日本の歴史書、鎌倉時代末期成立とされる）や『明月記』（平安時代末期から鎌倉時代初期の公家歌人・藤原定家の日記。1180年から1235年まで記す）、『玉葉』（九条兼実、1164年から1203年まで記す）でも触れられています。『明月記』は、藤原定家自身や親しい仲の人々の被害状況を中心に記されているのと比べて、『方丈記』はさまざまな立場の人の被害状況と心情に目を向けた作品と言えます。『玉葉』には元暦の大地震の被害について、余震や地下水の噴出など詳細部分まで記録しており、政治家でもあった著者の九条兼実が災害の被害に高い関心を持っていたことがうかがえます」

「古典も含め、文学作品を読む意義は、自分たちが体験していないことを追体験させてくれるところにあると思います。災害によって負の心情に陥った人や私達が決して実行しないような犯罪を行った登場人物などの描写に触れることで、どうして経緯でつながってしまうのか、どうしたら避けられるのかを考える手になります。悩んでいる人の気持ちを察しやすくなります。かつて人間たちが犯してしまった差別といった過ちがあることを現代の人間に伝え、繰り返さないよう戒めてくれることもあります」

「おすめの文学作品は、

 大豊建設株式会社 代表取締役社長 大隅 健一	 株式会社 奥村組 代表取締役社長 奥村 太加典	 株式会社 鴻池組 代表取締役社長 渡津 弘己	 東急建設株式会社 代表取締役社長 寺田 光宏	
 株式会社 不動テトラ 代表取締役社長 奥田 眞也	 株式会社 竹中土木 取締役社長 竹中 康一	 東洋建設株式会社 代表取締役社長 武澤 恭司	 東亜建設工業 代表取締役社長 秋山 優樹	
 「決壊しない堤防」への転換 インプラントロック堤防 壁筋による拘束地盤免震 許容構造部材によるインプラント構造壁 インプラント工法で世界の建設を変える GIKEN 株式会社 技研製作所 【国内拠点】 東京、高知、北海道、宮城、千葉、大阪、兵庫、福岡 【海外拠点】 オランダ、ドイツ、アメリカ、シンガポール、タイ、中国、オーストラリア 【研究開発】 テクニカルセンター、テストフィールド（6ヶ所） 【情報発信】 IPC国際圧入センター（東京、北海道、宮城、大阪、福岡） www.giken.com	 りんかい日産建設 代表取締役社長 前田 祐治	 株木建設株式会社 取締役社長 株木 康吉	 若築建設株式会社 代表取締役社長 鳥田 克彦	
	人と、社会と、地球の未来をカタチに			
	 みらい建設工業株式会社 代表取締役社長 小西 武	 あおみ建設株式会社 代表取締役社長 河邊 知之		
 株式会社 松村組 代表取締役社長 村上 修	 株式会社 本間組 代表取締役社長 本間 達郎			
 株式会社 大本組 代表取締役社長 三宅 啓一				